

## 指針4 観光振興による地域社会・経済の好循環化



### 【方向性① まちの魅力の活用推進】

#### ●地域の魅力発見・発信

新型コロナウイルス感染症の拡大期には、人流は大きく変化し豊島区内の観光産業も打撃を受けました。豊島区には、欲しいもの食べたいものがすぐに手に入る池袋、昭和レトロを感じるマンガのまち南長崎、歴史と文化が息づく雑司が谷・目白、都電とバラの街並みに「和」が溶け込んだ大塚、商店街の魅力あふれる巣鴨、花とみどり豊かな駒込など、各地域が異なる魅力を持っています。遠方からの来街者に限らず区民が自分のまちを楽しむ視点も重要です。池袋をはじめとして街歩きで楽しめる「ウォーカブルなまち」を目指し、消費行動へもつなげていきます。

また、区の文化・観光にまつわる様々な情報を、WEBサイト「IKE-CIRCLE (イケ・サークル)」に集約し、SNSを活用した若年層への情報発信の強化やデータ分析に基づいた効果的・効率的な観光施策を展開していきます。さらに、区内で増加しつつある外国人留学生の情報ネットワークを活用した観光魅力の発信について、検討を進めます。



IKE-CIRCLE(イケ・サークル)ホームページより

#### ●としまの地域ブランドのさらなる磨き上げ

豊島区では、芸術・音楽などをはじめとするクリエイティブ産業が活発です。なかでもマンガ・アニメは、令和2(2020)年にオープンしたトキワ荘マンガミュージアムをはじめ、アニメグッズの大型ショップが進出し、マンガ・アニメを活用したイベントが多く開催されるなど、マンガ・アニメ・コスプレの聖地として注目を集めています。今後も、東京都のアニメ拠点「アニメ東京ステーション」や関係団体・事業者との連携を強化します。また、文化都市としての地域ブランドを高めるための観光事業を推進し、来街者のさらなる増加と、それに伴う観光消費額の拡大による地域経済の活性化を目指します。



©池袋ハロウィンコスプレフェス

### 【方向性② 誰もが観光を楽しめる環境の整備】

#### ●ユニバーサルツーリズム\*の推進

来街者の利便性を向上させ、安全・安心に観光をすることができる環境整備には、バリアフリーの視点が重要です。豊島区では、「池袋駅地区バリアフリー基本構想」に基づき、案内サインやトイレ、エレベーターなどのハード面に加え、心のバリアフリーなどのソフト面も含めた、一体的で質の高いバリアフリーの充実を関係事業者と連携し推進しています。これに加えて、外国人などそれぞれが持つ多様な文化・習慣への対応や、コミュニケーションの障壁をなくすことで、誰もが心地よく過ごせる環境づくりを目指します。

また、キャッシュレス化やデジタルメニューの導入など、デジタル技術を活用することで、誰もが快適に過ごせるおもてなし環境の整備を促進します。

## ●インバウンドに向けた取組

アフターコロナの状況で海外からの来街者が戻りつつある今、多くの外国人旅行者が豊島区の魅力を体感し、快適な観光を楽しめるような仕組みが必要です。

商品の購入だけでなく、日本文化体験やその時にその場でしか経験できない特別な体験プログラム、体験型ツアーの充実を進め、観光の高付加価値化を図ります。そして、まちをよく知る各地域の案内人の活用や、外国語通訳ガイドなどの養成を一般社団法人豊島区観光協会と連携して行い、おもてなしの実践の場を提供していきます。また、快適な滞在とするために、観光案内標識における多言語表示の充実、インバウンド冊子の発行の取組も進めていきます。



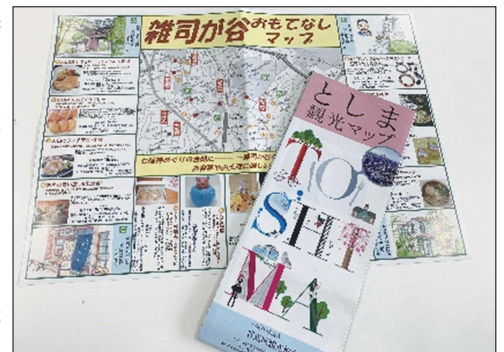
インバウンド冊子

## 【方向性③ 産業と観光の融合による新たな価値の創造】

### ●商店街振興と融合した観光施策

豊島区内には、神社仏閣や文化遺産、伝統工芸、食など、各地域に特色豊かな観光資源があり、それらを目的に内外から来街者が集まります。しかし、目的地を観光後、すぐに移動してしまうケースも多く、隣接する商店街を周遊し長く滞在してもらう仕組みづくりが必要です。

商店街の個々の店舗の魅力を高めることに加え、商店街内の老舗店やそこでしか買えない銘品、商人まつりなどの商店街イベントについて、WEBサイト「IKE-CIRCLE (イケ - サークル)」でPRし、商店街を観光名所のひとつとして人を呼び込む取組を進めていきます。



観光マップ

### ●区内銘品のブランディング

豊島区内でしか買うことのできない銘品や伝統工芸品、伝統芸能の体験型コンテンツを、ファーマーズマーケットやふるさと納税の返礼品など、区が有する販路を活用し広く来街者へもPRしていきます。

また、商店会と交流都市の連携によるコラボ商品の開発や、近隣の商店会が連携したまちおこしブランドの立ち上げなど、地域ブランドの振興に関する新たな取組が進みつつあります。今後は、それらの自発的な取組を支援し、豊島区のファンを増やし、消費額の拡大へつなげていきます。



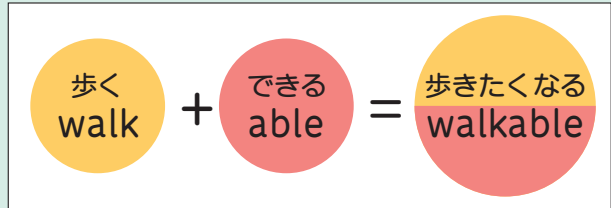
イケ・サンパークにて土日開催される、ファーマーズマーケット

コラム

# 誰もが暮らしやすい 「ウォーカブル都市・池袋」を目指して

## “ウォーカブル”って何？

「歩く (walk)」と「できる (able)」を組み合わせた造語です。車中心だった都市から、人中心の都市へシフトするための言葉として、世界中で注目されています。



## どうして“ウォーカブル”なの？

歩きたくなるまちなかになることで、地域消費や投資の拡大、観光客の増加や健康寿命の延伸など、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造につながる事が期待されています。

## 人が主役のまちづくりで、もっと歩きたくなる池袋に

豊島区では、実現に向け**3つの取組**を進めていきます。

### 1. 世界に選ばれるアート・カルチャーによるまちづくり



劇場空間化された公園や広場などを活用し日常的に文化活動やアクティビティを創出するとともに、人の活動が見える質の高い空間を形成します。

### 2. アイレベルの自然(みどり・水)を生かしたまちづくり



水戸岡鋭治氏デザインのIKEBUS



南池袋公園

4つの公園をグリーンスローモビリティ※[IKEBUS]でつなぎ回遊性を高めるとともに、まちなかの小さなみどりをつなげることで身近な“みどりの体感価値”を向上させます。

※グリーンスローモビリティは、時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称

### 3. 東西のシンボルストリートを基軸としたまちづくり

西口周辺の開発事業による駅前広場の再整備や、東口のクルドサック化による歩行者広場化により、駅東西に広大な歩行者空間を形成します。また、デッキの整備や地下通路により、駅を起点にまちの東西をつなぐ「ダンベル型のまちづくり」を推進します。



※[いけぶくろウォーカブルコンセプトブック]より抜粋